

# 自分で決めること，人とのかかわりを大切にしたい栽培活動

## — 漬け物樽で野菜を作ろう —

川 崎 一 朗

### 1 はじめに

最近の子どもたちは，植物を栽培する機会が少ない。特に野菜や果物に対する栽培経験は十分とはいえない。例えば，大根が土の中にできることを知らない，ナスやキュウリがなっているところを見たことがない，イチゴが土の上になるのを知らないなど，このような例は枚挙に暇がない。調理をされて出てきた食べ物が何だかわからないということもある。キャベツとレタスの違いがわからない，ミカンとハッサクの区別がつかないなど，このような例は，数限りなくある。それは，最近の家庭の生活を反映しており，ある程度しかたのないことである。しかし，自分が好きな食物はどのように育ち，どのような世話が必要なのかということを知り，野菜や果物とかかわりあいながら，できるだけ自分の力で育ててみる経験も必要であると考えます。

本学級の子どもたちは，1年生の時から，アサガオ・サツマイモ・球根類の栽培を経験してきた。栽培活動をしていく中で，自分で決める場を多く与えられ，自己決定をしてきた。例えば，アサガオは自分の好きな色を選び，球根類は自分の育てたいものを選んで栽培をした。その結果，栽培意欲が持続し，結果も自分なりに満足する子どもが多かった。サツマイモについては，実際に食べることができたという満足感が，栽培の達成感であったように思う。

2年生になり，キュウリ・ミニトマト・ナス・ピーマン・エダマメ・トウモロコシ・スイカ・メロンを栽培してきた。自分なりのこだわりで栽培できそうなものを選び，どの子どもも収穫の喜びを味わうことができた。9月になり，枯れてしまった植物を見ながら，次は何を育てようかという思いが子どもたちの間に自然に生まれてきた。夏野菜と同様に，自分で育てる野菜を決めた。野菜は，キャベツ・ハクサイ・ブロッコリー・芽キャベツ・サニーレタス・ジャガイモの中から選んだ。一度野菜の栽培を経験している子どもたちは，自信をもって取り組むことができ，収穫の時期を迎えている。本稿では，年間を通して栽培活動に取り組み，子どもたちがどのように変わったのを見ていきたい。

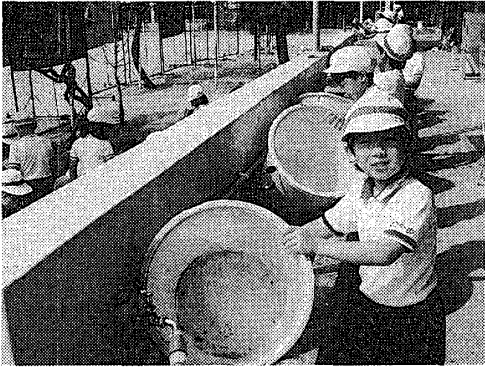
### 2. 実践の実際

#### (1) 栽培方法

2年生の栽培暦は，次の通りである。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
春植え野菜	○	—————										
	4/26	植え付け				収 穫						
秋植え野菜						○	—————					
						9/10	植え付け					収 穫

このように，年2回の栽培活動を行った。栽培容器として，漬け物だる（2斗樽）を一人一樽用意し，子どもたちが，自分の畑だという思いを強くもつことができるように配慮をした。2斗樽に



は、土が40リットル近くはいるので、植物は十分に育つ環境にあるといえる。写真にあるように、樽のそこに穴を開け、栽培容器として十分に活用できるものである。これは、一つ200円程度で一度使用したものを漬物店から譲ってもらうことが可能である。

本実践では、種苗園の方に、年間通して関わっていただき、実際の授業にも入っていただき教師ではない支援者と関わりをもつことも大きなねらいとしている。

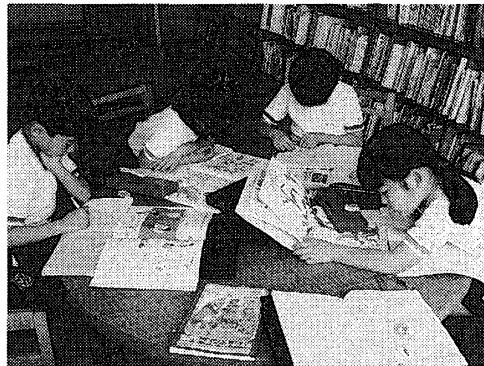
## (2) 学習のねらい

一連の栽培活動で、次の5点をねらいとして設定した。

- ① 自分の栽培したいものが、自分なりのこだわりで決めることができるようにする。
- ② 野菜や果物の栽培方法を、自分なりの方法で調べ、実行できるようにする。
- ③ 友だちやお店の人とかかわりながら、野菜の世話ができるようにする。
- ④ 栽培方法や生育の様子を絵や文などで表現することができるようにする。
- ⑤ 収穫した作物を持ち帰り、家族で共に収穫の喜びを味わうことができるようにする。

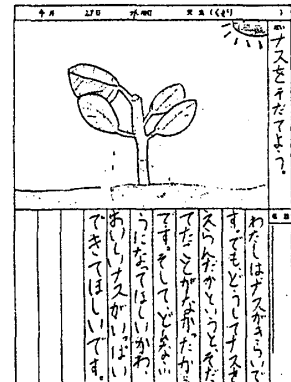
## (3) ねらいの達成に向けての取り組み

①と②については、次の写真を見てみたい。



自分で栽培したいものを自分のこだわりで決め、栽培方法を調べている場面である。同じ作物を栽培する者どうしで集まって、情報交換も行われた。

③についてであるが、実際に苗を買う場面から、種苗園の方と事前に打ち合わせをし、学校に来ていただき、子どもたちが実際に買うことが出来る場を設定した。



④については、前ページの子どもの表現を見たい。これから始まる栽培への期待とがんばろうという意欲が感じられる。⑤については、最後に子どもの感想を紹介したい。

(4) 人との関わりについて

本実践では、栽培活動を通して、特に人との関わりに焦点を当て、取り組みをした。2回の授業研究を通して、どのような関わりが持てるようになったかを考えてみたい。

① 春の指導案から

ア 授業設計の焦点


本時の学習は、苗や種を植えて約2か月後、ある程度大きく育ち、収穫に向かって世話をする場面である。これまでに、間引いたり、芯を止めたり、腋芽を摘んだりするなど、作物に合った世話の方法を経験してきている。本時では、本で調べたことや人に聞いたことを手がかりにし、友だち同士で確認したり、支援者に聞いたりすることで、自信をもって世話をすることができればと思う。支援者は担任だけでなく、1年生の時からかかわりを持たせていただいている種苗園の方に来ていただき、子どもたちの活動を支援していただくこととした。本時の活動が、これから収穫を迎えるまで、長い栽培活動の意欲を持続するきっかけになることを願っている。

仮説 自分が栽培する作物の世話の方法を知ったうえで、人に聞いたり友だちと確認したりする事ができれば、自分で実際に作物の世話をすることができるであろう。

イ 本時のねらい

友だちや支援者とかかわり合いながら、自分の栽培する作物の世話をすることができる。


ウ 学習の展開 (5月12日)

学 習 活 動	みとりの視点	教師の働きかけ
1 前回の野菜の栽培でどのような世話をしたか振り返る。 ・間引く。 ・芯を止める。 ・腋芽を取る。 ・支柱を立てる。	○夏野菜の栽培のことをどのように振り返っているか。	1・前回の栽培活動の様子を写真で紹介する。
2 今回の世話の仕方を確認し、前回の世話との比較をする。 ・肥料をやるのは同じはずだよ。 ・虫はいないかな。 ・土をかぶせなくていいかな。 ・ちょっと楽かな。	○自分が調べた方法で、どのような世話をしようとしているか。 	2・自分の調べた方法や、人に聞いた方法をもう一度確認するよう伝える。 ・前回の世話と比較するよう、言葉かけをする。
3 実際に世話をする ・これでいいのか友だちと相談をしよう ・おじさんや先生にも聞いてみよう	○友だちとどのようなかかわりをしようとしているか。 ○支援者にどのようなかかわりをしようとしているか。	3◎友だちや支援者に相談しながら世話をしようとする。 ・世話の様子を見守り、確認をする。
4 発見カードに表現をする。	○どのようなことにこだわって表現をしようとしているか。	4・思ったことや感じたことを表現するよう伝える。

② 授業後の検討会から

関わり合いの質を上げることが話題となった。友達との関わりを深くするために、縦1列でなく、円形にしたり、同じ世話の場面を見合う場面が必要ではないかという指摘を受けた。かかわりには、作物とのかかわり、友だちとのかかわり、支援者とのかかわりがあり、それぞれの質を高めていくことが次への課題になろうということであった。また、野菜の世話は、何のためにするのかということが、子どもたちに十分に伝わっていなかったのではないかという指摘も出た。とりあえずやってみて、後なるほどと納得するのも一つの方法ではないかと考えている

③ 秋の指導案から (11月11日)

学 習 活 動	みとりの視点	教師の働きかけ
<p>1 前回の野菜の栽培でどのような世話をしたか振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・間引く。</li> <li>・芯を止める。</li> <li>・腋芽を取る。</li> <li>・支柱を立てる。</li> </ul> <p>2 今回の世話の仕方を確認し、前回の世話との比較をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肥料をやるのは同じはずだよ。</li> <li>・虫はいないかな。</li> <li>・土をかぶせなくていいかな。</li> <li>・ちょっと楽かな。</li> </ul> <p>3 実際に世話をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これでいいのか友だちと相談しよう</li> <li>・おじさんや先生にも聞いてみよう</li> </ul> <p>4 発見カードに表現をする。</p>	<p>○夏野菜の栽培のことをどのように振り返っているか。</p> <p>○自分が調べた方法で、どのような世話をしようとしているか。</p>  <p>○友だちとどのようなかかわりをしようとしているか。</p> <p>○支援者にどのようなかかわりをしようとしているか。</p> <p>○どのようなことにこだわって表現をしようとしているか</p>	<p>1・前回の栽培活動の様子を写真で紹介する。</p> <p>2・自分の調べた方法や、人に聞いた方法をもう一度確認するよう伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の世話と比較するよう、言葉かけをする。</li> </ul> <p>3◎友だちや支援者に相談しながら世話をしようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世話の様子を見守り、確認をする。</li> </ul> <p>4・思ったことや感じたことを表現するよう伝える。</p>

④ 授業後の検討会から

種苗園の方とも何回も関わりを持たせていただいたので、子どもたちが自然に話しかけていた。また、種苗園の方も数回実際に授業に入られたので、声をかけるタイミングなど、コツをつかまれ、余裕をもつておられた。子どもたちは、2回目の栽培活動なので、自分の調べてきた方法で、自信をもって世話ができていた。子どもたちの関わりがより多く持てるように、樽の円形にしたりするなど置き方を工夫したので、話がしやすかったようである。



(5) 収穫した作物を持ち帰り、家族で共に収穫の喜びを味わうこと

自分で育てた作物を、どうしたいかと子どもに聞くと、誰でも「もって帰りたい。」という。グループで育てたのなら、〇〇パーティーということも考えられようが、一人が一樽で育てた作物は自分のものという思いでいっぱいになるのが自然だと思う。初めてもって帰った日の子どもの感想と、保護者の感想を見てみたい。

ラッキー！！ えだまめ大せいこう

今日、はじめて、えだまめをもつてかえりました。わたしは、「まえ、〇〇さんが言っていたように、すごくあまいかな。」と思いました。おとうさんに食べさせてあげたら、「しあわせ。」と、言ってくれました。今日は18こだったので、つぎは、たくさんもつてかえって、おかあさんにも、おとうさんにも食べさせてあげたいです。

おとうさんから

「私が育てた枝豆を食べさせてあげるからね。」と、ずっと言っていたので楽しみにしていました。今日、その枝豆が食べられます。ビールを飲んで枝豆をつまみます。「うん、甘くておいしいじゃん。ありがとう、お姉ちゃん。」お父さんが、「ビールに枝豆が最高さ。」と言ったから、枝豆を育てると決めてくれました。その枝豆を食べることができて、お父さんは、本当に、本当に幸せです。また、枝豆をもつて帰ってね。

子どもも保護者も最初の収穫を喜び合っている様子がよくわかる。おそらくこの子どもは、次の収穫の時には、お母さん、弟たちとも喜びを味わったに違いない。ここでは紹介ができなかったが、子どもたちが表現したのから、どの子どもも、家族と共に喜びをわかしあつたことがよくわかつた。さらに、自分の生活を豊かにしようと、料理を手伝う子どもたちも多くなつた。

### 3. 成果と課題

5つの学習のねらいに沿って、年間を通じて栽培活動を行なつてきた。特に人とのかかわりについて重点を置いて取り組んでみた。自分で決める場は多く設定したので、子どもたちは自分のこだわりで自己決定をし、先に進むことができるようになってきた。学年が進むと、指導者が場の設定の数を少なくしても、自分で決めていくことが多くできればと思う。栽培活動は、十分に作物ができることが次への意欲を喚起するものとなる。夏野菜は、どの子も十分な達成感を味わい、2度目の栽培に意欲的に取り組んでいる。最初は自分一人のことで精一杯だつた子どもたちは、世話の回数が増えるたびに、友だちの野菜のことにも目が向き始め、お互いに教え合う場面も見られるようになってきた。指導者も教師だけでなく、種苗園の方に定期的に入つていただくことで、効果的に授業を進めることも可能となつた。冬休みに入って、野菜のことが気になつて、お店に電話をかけたり、手紙を出したりした子どももいた。栽培の意欲が高いレベルで継続している証拠である。友だちとのかかわり、お店の人とのかかわりは、栽培活動を通して、深まりを見せたと考える。今後は、栽培活動以外でも、人とのかかわりを深めていく方途を模索していきたい。

#### 参考文献

- 1) 日本農業教育学会編、『学校園の栽培便利帳』、農文教、1996
- 2) 山田貴義、『コンテナ野菜づくり』、講談社、1998